



2026 年 9 月 2 日

各 位

会 社 名 株式会社 WOLVES HAND  
代表者名 代表取締役 CEO 兼 COO 北井 正志  
(コード：194A、東証グロース市場)  
問合せ先 執行役員 CFO 田中 哲生  
(TEL. 06-6599-9106)

## WOLVES HAND コーポレートブランドストーリーの策定のお知らせ

当社は、当社グループが目指す獣医療の未来と、その根底にある経営思想を明確にするため、当社コーポレートサイトのリニューアルに着手しており、その先駆けとして新たに「WOLVES HAND コーポレートブランドストーリー」を策定しましたので、お知らせいたします。

「コーポレートブランドストーリー」は、多くの企業広告やコピーライティング、アートディレクションを多数手掛け、日経広告賞商品広告賞最優秀賞、日経広告賞コーポレートブランド広告賞優秀賞、London International 広告賞など多数受賞した松本圭三氏（クリエイティブディレクター・コピーライター）と大手企業の CI やブランディング、プロダクトデザインや空間デザインなど、大手企業の多岐にわたるデザインを手掛け（G マークゴールドアワード賞、緑の建築賞など受賞多数。）、現在当社のデザイン部（WHD 部）のチーフクリエイティブオフィサーを務めている酒井裕典が担当いたしました。

コーポレートブランドストーリーの策定は、単なるブランドイメージの刷新を目的とするものではありません。当社グループが、これまでの「動物病院を運営する企業グループ」から、動物病院を中核として、人材、医療技術、医療機器、研究開発、テクノロジー、データ等を結集し、新たな獣医療の価値を継続的に生み出す「獣医療価値創造プラットフォーム」を基軸とした事業のプラットフォーム化への進化を明確にするものです。

当社は今後、このブランド思想をグループ全体へ展開するとともに、コーポレートサイトを全面的にリニューアルし、当社グループが目指す獣医療の未来と、当社独自の価値創造モデルを発信して参ります。

### （ご参考）コーポレートサイトの全面リニューアルへ

コーポレートブランドストーリー策定を起点として、当社グループ全体のブランド体系および情報発信を順次刷新いたします。

その一環として、現在、当社グループのコーポレートサイトの全面リニューアルを進めております（リニューアル完了は2026年11月頃を予定。）。

新たなコーポレートサイトでは、グループ各社・各事業を個別に紹介するだけでなく、動物病院、獣医師・人材、医療技術、医療機器、研究開発、テクノロジー、データ等がどのようにつながり、新たな獣医療の価値を生み出しているのかを可視化し、当社独自の「獣医療価値創造プラットフォーム」を国内外のステークホルダーへ発信して参ります。



## いま治療が必要なのは、獣医師だと思う。

動物病院の開業医たちは、疲弊している。

経営や労務、採用、さらにはクレーム対応に追われ、目の前のいのちと向き合う時間を奪われている。

慢性的な人手不足と長時間労働により疲労が蓄積し、結果判断ミスを招き、

経営力を失った病院は、利潤だけを追求する大手企業や投資ファンドに飲み込まれていく。このままでは、いけない。

私たちウルブズハンドは、この状況を根底から変えるために立ち上がった。

まずは、北海道から沖縄まで、全国に広がる日本最大級の動物病院ネットワークを築き上げた。

個々の病院だけでは、激しく変化する経営環境や医療の高度化に対応するには限界があるからだ。

開業獣医師たちが結集し、自ら資本を持ち、獣医師自身が経営の主導権を握るプラットフォームを現実のものとした。

孤立する日本の獣医師たちの先頭に立ち、進むべき道を示す。

知恵、技術、人材を結集し、日本の動物病院を立て直す。

個の強さを、群れの力に。群れの力で、獣医療改革へ。

狼たちのように、道なき森を遠くまで行こうと思う。

## 獣医療を再定義する。ウルブズハンド





## 狼は、決して仲間を見捨てない。裏切らない。

狼の強さは、牙ではなく結束力にある。しかしただ群れるだけではない。

仲間の声を聞き逃さず、遠く離れていても呼び合い、互いを守りながら、  
弱った仲間を支え、厳しい環境を生き抜いていく。

では人間界、とりわけ、獣医療界はどうだろう？ 病院や患者さんのことよりも、自分の利益を最優先する人がいる。  
経験や技術を習得すると顧客を連れて近隣で開業する人もいる。

志のある獣医師たちが重い負担を背負わされている。もう見過ごすことはできない。

狼のように支え合い、知恵を結集する拠点が必要だと考えた。

その想いを「ウルブズハンド」という名に託し、私たちの挑戦は始まった。

全国のネットワークでは高度医療や難症例の知見を共有・蓄積し、最先端の高度医療機器メーカーや、  
衛生環境を革新する光触媒のパイオニア企業をグループに迎えた。

さらに、次世代型電子カルテシステムの導入、バイオマテリアルの自社開発、産学連携による先端研究など、  
多くの仲間と力を結集し、獣医師が医療に専念できる環境を整えた。

ウルブズハンドは、獣医師たちの叫びに耳を澄ます。決して見捨てない。裏切らない。

全国の動物病院を支え、動物たちのいのちを守り抜く。

獣医療の常識を問い直し、すべてを再構築しようと思う。

## 獣医療の再生を率いる。ウルブズハンド





## 動物病院の広告で 獣医師たちが作り笑いしているように見えるのは 気のせいだろうか？

ペットが病気になったとき、飼い主が動物病院に求めることは、ただ一つ。

完治して元気な姿に戻ること。それ以外に何があるだろう？

笑顔では、病気は治せない。言葉だけでは、いのちは救えない。

必要なのは、確かな知識、高い技術、豊富な経験。

そして、困難な症例から逃げない覚悟だ。

しかし今、獣医療の現場では、多くの獣医師が孤独な戦いを強いられている。

一人の知識には限界がある。一つの病院でできることにも限界がある。

救えないいのちがある。だから、私たちは獣医師たちを孤立させない。

病院の壁を越えて、知識をつなぐ。経験をつなぐ。技術をつなぐ。人をつなぐ。

一人ひとりの力を結集し、一頭のいのちに、群れの知恵と力で向き合う。

そしてその先頭に立ち、日本の動物医療を立て直していく。

すべては、一つのいのちを、医療体制の不備で失わせないために。

## 群れで、いのちを守り抜く。ウルブズハンド





## 経営は、獣医療から学んだ。

私の経営思想は、経営学から生まれたものではありません。  
外科医として、数え切れないいのちと向き合う中で培われたものです。  
動物は言葉を持ちません。痛みも、不安も、未来への希望も、自ら語ることはできません。  
だからこそ獣医師には、その沈黙の先を読み取り、瞬時に決断を下す責任があります。  
いのちを救う現場に、多数決はありません。合意形成が、常に最善とも限りません。  
必要なのは、経験。知識。科学。そして、決断する覚悟です。  
限られた時間の中で、最善と信じる選択をする。その結果がどうであれ、責任から逃げない。  
私は、この原則は企業経営にも通じると考えています。  
組織が前に進むのは、全員の意見が一致した時とは限りません。  
時にはリーダーが全責任を引き受け、誰よりも先に決断しなければならない。  
リーダーシップとは、権限ではない。結果のすべてを背負う覚悟です。  
この「責任ある意思決定」の文化を、動物病院の中だけにとどめずに、  
研究やテクノロジー開発、データの蓄積・活用へとその領域を広げていきます。  
「狼の手」が、個の力を群れの力に変える。群れの知恵と力で、いのちを守り抜く。  
獣医療の次の標準を、私がつくります。

株式会社 WOLVES HAND

代表取締役CEO兼COO / 獣医師 北井正志

